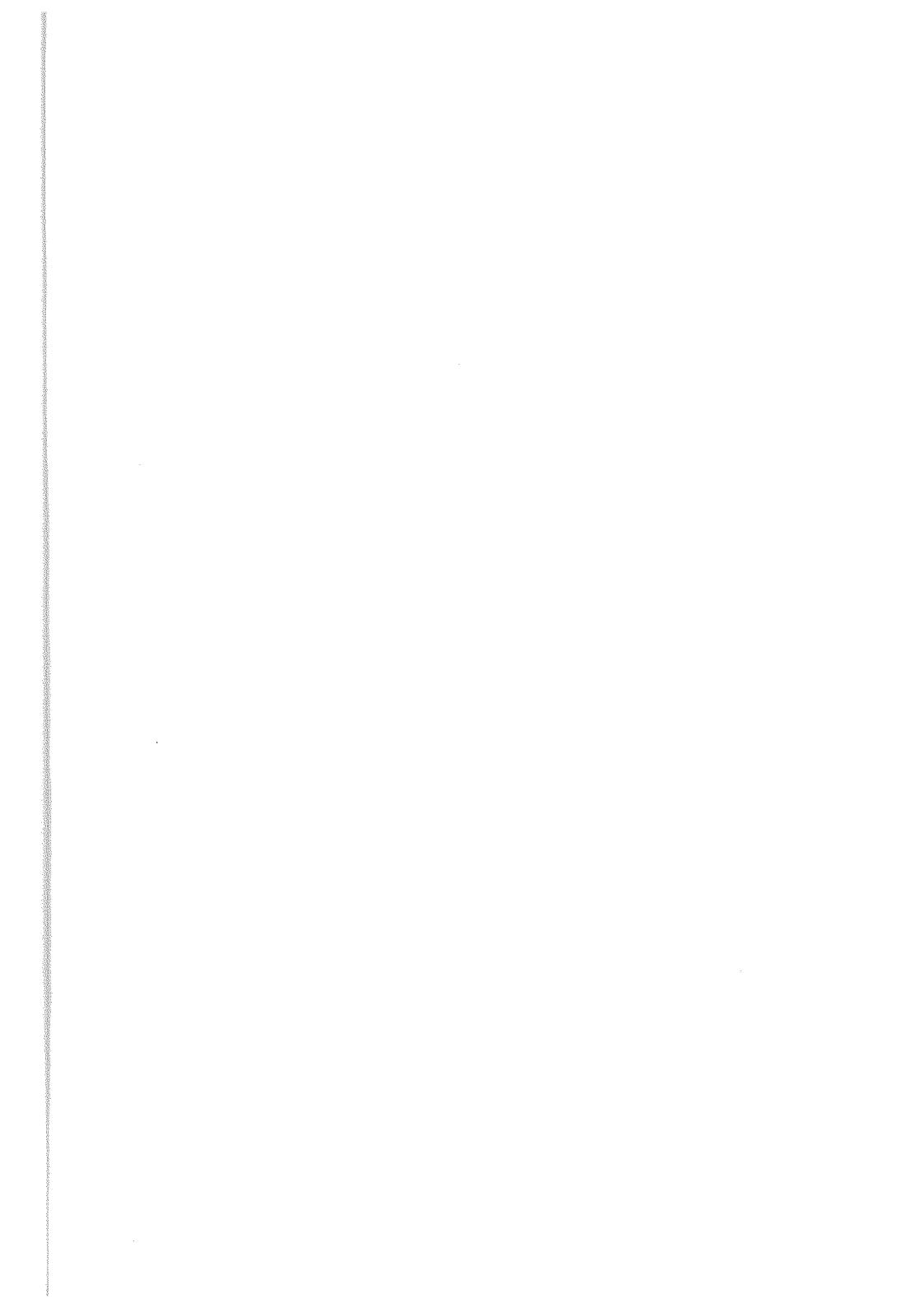


鷹司家旧蔵本
展示目録

宮内庁書陵部



守清中苦吟之旨
皆實事申狀不一
逐逐之終不見其
道逸之儀九裨
妙惟心竟清不蘇
權別面言良清公
廷發然其願惟不
便或力未才或學流
不克清言力偏流
才以休不次實有
清德平力更難
但於其補年其符
信下願有文書平
向後時宜以行必
水逐可上計 謹
謹之

謹

二月十三日周自

夏目同録百首恋 製

咏

校位臣藤原朝美平上

春

いほけやあふる春ささりしめは
あわさけしこふあしれい
あつとこれが紀のたまふかよと
あつとこれが紀のたまふかよと
あつとこれが紀のたまふかよと
あつとこれが紀のたまふかよと
あつとこれが紀のたまふかよと
あつとこれが紀のたまふかよと
あつとこれが紀のたまふかよと
あつとこれが紀のたまふかよと

一〇 鷹司冬平広製百首和歌 卷頭

正五位上藏人右大臣藤原冬光

延徳二年霜月六日

藏人冬平藤原冬光

此二冊者鳥尾善成見本冬平藤原冬光
傳本也才及今許備公朝服判
無筆光眼之字有官例正老
冬平字之字有公例正老
巧年物之字有公例正老

冬平字之字有公例正老

一九 新古今和歌集 上卷々尾

一 鷹司家系圖天兒屋根尊 | 政熙

江戸末期写 一卷 三六 1013

二 鷹司家中興家系 信房 | 基輝

江戸中期写 一冊 鷹 一巻

(奥書)

此本入御覽之処、不被出関白様、右府様思召を以て書改之、一本別ニ留書有之

三 鷹司家系譜近代 | 輔平 | 輔熙

江戸末期写 一冊 三六 五五

四 鷹司家歴代院号 兼平 | 房熙

江戸末期写 一冊 三六 五五

五 鷹司家書物入日記

江戸末期写 一冊 三六 五五

六 鷹司家文書類目錄並下書文政元 | 弘化二

鷹司政通筆 七通 三六 三五

七 鷹司政通秘書目錄 文政二

自筆 一冊 鷹 五五

八 称念院殿鷹司御消息弘安五・二・一三 | 兼平宮崎宮造營賞事

自筆 一卷 鷹 六〇

九 称念院殿讓状 正応六・四

鷹司基忠筆 一卷 鷹 六〇

(旧表紙見返書)

照念院殿 先公御讓状也、正本在前博「陸、書写賜之、前殿御筆」也

永仁五年八月十六日

(二条兼基) 左大臣(花押)

(奥書)

此一卷本者是に候、書「写進候」

永仁二年□月□日

(花押)

二

一〇 鷹司冬平応製百首和歌 文保百首

自筆 一卷

鷹 六三

二 鷹司信尚詠和歌 後陽成天皇御添削

慶長頃原本 二卷

特 二

三 鷹司教平消息 (一通)

自筆 一卷

鷹 六六

三三 鷹司房輔詠歌 並 雜詠 寛文二・五・二四 禁裏御月次懷紙下書他

自筆 一卷

鷹 六八

三四 鷹司兼熙詠草

享保頃自筆 一冊

鷹 六四

三五 鷹司輔平詠草 鶯有嘉声

自筆 一卷

鷹 六二

一六 鷹司政通詠和歌 孝明天皇御判

原本 三・八点のうち

特 六

一七 鷹司輔熙詠歌 並 同政通評 附岡見考

原本 一卷

鷹 六三

一八 新古今和歌集 隱岐本系

室町初期写 四冊

鷹 六〇

(極書)

此新古今集一部四帖 (帝家) 九条様「懸御目之處、後京極撰政良経公之」御真筆無紛由、

被成御意候「誠寄代之重宝、無比類旨、被仰」事候、尤可有御秘藏候、御奥書も」

可被遊旨候間、猶々連々可申上候、恐々謹言

仲冬十九日

宗増 (花押)

(封) 八木隼人正殿人之御中

信乃小路淡路守 宗增

(添札)

嘉永七年弥生吉日、不慮從書林賈得

(鷹司政通) 関白(花押)

一九 新古今和歌集 隠岐本系

嘉永六年 鷹司政通・梅溪通善写

二冊 鷹 三六

(上巻奥書)

此二冊者、烏丸光政卿累無為家秘書「伝来、昨夏令許借、公務暇雖」執筆、老眼書
写有劣、仍下巻「令通善朝臣令模写、今年」巧畢、努々不可有他見者也

嘉永六年癸丑二月

(鷹司政通) 花押

(下巻奥書)

此新古今集者、冬光卿真跡、光政卿家藏之極「秘本、許借上冊は執筆、下冊者命
通善朝臣」令模写、為秘藏矣

嘉永六年三月

(鷹司政通) 関白(花押)

二〇 八雲御抄再撰本
玄覚本系

江戸中期写

六冊 鷹 三三

(箱書)

八雲御抄六冊、不慮感得実為証本不堪悦、永為家藏矣

安政三年二月 日

(鷹司政通) 関白(花押)

帙裂破損、取替令修覆畢

三

四

三 八雲御抄 再撰本
玄覺本系

室町末期写

六册

鷹 三

三 新勅撰和歌集口実

北村季吟著

江戸中期写

四册

鷹 三

(本奥書・各卷卷末)

(第一卷)

此一卷、自序至第五卷、墨付九十六枚、從元祿十三年三月「朔日染筆、而同月三十日抄出書写畢」

法印季吟在判

(第二卷)

右第一卷 自第六第十卷、墨付八十九枚、「元祿十四年辛巳五月五日投筆、於杜鵑花下

再昌院法印 七十八
歲在判

(第三卷)

此第三卷從第十一卷至第十五卷、墨付八十九枚、(、、) 康辰五月十七日「染筆、六月廿二日立款涼風朝雨天註畢」

法印季吟在判

(第四卷)

此第四卷從十六至第二十卷、墨付九十六枚、當五月十八日染「禿毫、而七月十六日辰下刻註解、而題以号新勅撰和」歌集口実抄畢、一部之墨付三百六十五枚 日數前後百廿四日也

元祿十三年庚辰七月廿五日一校合了

再昌院法印在判 七十七歲

三 続後撰和歌集口実

北村季吟著

江戸中期写

四册

鷹 三

(本奥書・第四卷卷末)

癸未年九月下旬、以烏丸重相 光広卿筆之本使湖元季任校合、件本「川越少将殿所持

也、兩本相違之所々以朱書之、或書光以為印」 七松子

二 俊秘抄 一名 俊頼韻腦 源俊頼著 江戸中期写 一冊 鷹 二五

(本奥書)

寿永二年八月二日於紫金台寺見合了、依知足院入道」殿下命、奉為賀陽院俊頼朝臣所作、今題頭家」朝臣本号俊秘抄」

三 更科記 一名 悦目抄 室町末期写 (政通書入れ) 一冊 鷹 七四

(奥書)

癸丑春正月七日不慮得之畢、実」極秘之書、努々不可出窓外者」

(鷹司政通) 関白前太政大臣 (花押)

三 僻案抄 藤原定家著 室町中期写 二冊 鷹 六五

(極札)

大倉法橋」

僻案抄」

二冊共 定家卿筆」

外題 堯孝にても可有御座哉、」即刻治定申上かね候」

白紙はさみ置候、加筆凡」一条殿兼良公と奉存候」 右之通奉存候、以上

三 ざころも 室町末期写 四冊 鷹 七三

三 百首歌合 室町期写 一冊 鷹 七四

三九 春のみやまち

飛鳥井雅有著

安永九年写

一冊

三〇 二〇三

(奥書)

右仮名記者、飛鳥井雅有卿于時三位侍述作也、末孫雅威朝臣不慮買得之其本ヤマト、ダ、
學付九十九枚、為正真偽令見之、予歎称無窮、誠歌鞠実録可謂正記、即假借十余日、
辨高親筆云々而騰写畢、深藏函底、不可出閫外者也」

安永庚子夏六月 正二位前西槐藤宗城

三〇 高野物語

江戸初期写

一冊

三一 三〇六

三一 初心求詠集

高山宗砌著

応仁元年写

一冊

三二 三〇七

(奥書)

初心求詠集、又おくの一帖も宗砌作云々、」各別にありといへとも、おなしくとち加也
応仁元年十二月十八日 書写畢

三二 志波玖佐

心敬自注

江戸中期写

一冊

三三 三〇八

(本奥書)

一本奥書

右本は心敬書集也、殊ぬれ衣の理」にて書とよむる事、正法にも叶哉、又」夢の浮
橋なとかけるも同前候歟

三三 連珠合璧集

一条兼良著

明融写

一冊

三四 三〇九

(奥書)

此本一条太閤御作也」桑門明融

三 連歌奧秘之書

室町中期写

一冊

鷹 三

(宗祇禪師返答の末)

此冊宗祇禪師、同愚句共「競望、奥にてこれをしるし」遣し待り、則可破捨候也

三 誹諧連歌

鷹司信房写

一冊

三 三

三 称念院関白記

正元元・一二・廿五
即位礼服御覽記

鷹司兼平記

江戸期写

一冊

三 三

合綴

後照念院関白 鷹司記 乾元二(改元)嘉元四(改元)延慶元(即位)
冬平 元亨四(詩御会・御遊・和歌御会)

後円光院関白 鷹司記 正慶元・二・三
冬教 光厳天皇御即位記

三 後照念院関白記

乾元二・嘉元四・徳治三
改元部類記

鷹司冬平記

江戸期写

一冊

三 三

(本奥書)

寛永廿一年十一月用他筆令書写之了」

左大臣(花押写)

借請左大将 兼晴卿本、以備筆「令書写之、加一校了」万治四年三月廿六日

(花押写)

三 鷹司家記

天保五・正久二・一二
(有欠)

原本

一九冊

鷹 三

三 諸心覚二三ヶ条
知行方・勘定方・買物方・納戸方・作事方等

江戸期原本

一冊

三三 四二

四〇 鷹司家判物類天正五一
明治三

原本写本

七通
のうち

鷹 七三

1 織田信長朱印状天正五・十一・廿三
知行宛行

一通

2 織田信長書状天正七・十一・廿二
二条晴良子鷹司家養子ノ事

一通

3 豊臣秀吉判物写天正十三・七・十八
秀吉関白就任ニ付所領寄進

一通

4 豊臣秀吉判物天正十六・卯・十五
知行宛行

一通

5 豊臣秀吉朱印状文祿四・十・二
知行宛行

一通

6 徳川秀忠判物元和三・九・十一
知行安堵

一通

7 徳川綱吉判物貞享二・六・十一
知行安堵

一通

8 徳川家茂判物万延元・九・十一
知行安堵

一通

四一 常不動院領地文書建武・康永
文和(五通)

原本

一卷

鷹 六三

常不動院仙恵申状康永二・六
所領文書紛失之事

四二 古雜記 一名 古聞書

永正七、十一年写

一冊

三三 四六

(奥書文中)

八

時永正七年庚午季春念八日於撰州西成郡榎並瑞光山_下竹庭軒書寫

(同卷末)

永正十一年甲戌鷹月念五日大和州高市郡於五条石川庄竜安山丈室書寫

三 鷹司家遺領之事 安政六
慶応元

鷹司政通自筆

二冊

三五 七五

四 院司之事 三条院
後光厳院

江戸期写

一冊

三五 四四

五 台記 仁平三

藤原頼長記

天保二年写
鷹司政通

一九冊
のうち

三五 二五

(奥書)

此仁平三年冬記者真記、三条家「秘蔵、従実万卿借得、則令新写了」于時天保二年
辛卯五月

(鷹司政通
花押)

六 口言部類 一名中右記部類

中御門宗忠記

江戸末期写

三冊

三五 五三

(公事部本奥書)

此一冊者以伝来古卷_{吉田通穂殿御真筆}「書」写畢、固不可許他見者也」天明元年七月十一日参
議右大弁藤経逸

七 齋院御禊行列図 年中行事絵卷

江戸期写

三〇卷
のうち

鷹 六六

八 歌詠格之事

嘉永六年自筆
鷹司政通

一冊

鷹 三三

(文中與書)

癸丑三月十七日執筆可禁他見事

(鷹司政通
花押)

歌詠格之事 草稿

鷹司政通自筆

一卷 鷹 四五

咒 拾遺集抄註

鳥丸資慶抄(明曆三年)
後水尾天皇御註

嘉永七年写
鷹司政通

一冊 鷹 四四

(本與書)

這一冊者、拾遺和哥集之中愚昧不審少々「秘書之、以奉備 法皇御覽、則所」被註下之抄物也、後日於 御前付清「濁等了、尤深可函底者也

(與書)

此抄物從日野中納言拝借、老眼以短筆閑「暇写之、秘藏者、少々如僻案畢」
嘉永第七林鐘晦日「
関白(花押)

五 先考談余 阿野公業談

石川元武著
元祿十一年

安政二年写
鷹司政通

一冊 鷹 三二

(與書)

右一冊雖為本冊買得、虫食多くて無便、仍虫損「脱文のまま以走暇写之畢、可在相違、追而」可為吟味者也「安政二年五月 日
(鷹司政通
花押)

五 歌道 後塵抄

鳥丸光榮著

嘉永六年写
鷹司政通

一冊 鷹 三〇

(本與書)

享保十四年巳酉歲仲秋下旬

(奥書)

此一冊上下從光政卿許借、以老眼短筆新寫畢、倩案述作名不一顯、享保已四載なれは、内府光榮公權大納言四十才之期著述歟、此詠にて「可分明乎、亦詠わかぬ時は北村季吟の事を云、又雅章卿の事なく」あれは、光榮公ならんよし」

嘉永六癸丑歲南呂下旬筆畢

(廣司政通)
(花押)

三 勢語聞書内呈稿 一ノ一〇段 鷹司政通著 安政四年自筆 一冊 三卷 二頁

(内扉に)

内々禁中に上る下案 安政四 七十六

三 玉言集 天・下 安政五年写 二冊 三卷 三頁

(下卷奥書)

今年九月終功成、執筆義孚和氣信徳穂積重光紀直行新写、光政卿藏処冊子也

私ニ題玉言集ト云

(廣司政通)
(花押)

安政五年菊月十四日

五 再昌 三卷西実隆詠 安政五年写 一冊 三卷 三頁

(第三卷奥書)

從安政五年五月十九日到同廿五日朝自写畢

(廣司政通)
七十翁 (花押)

(第五卷奥書)

午八月下旬より筆とり九月八日に終功、しかれとも右の手不工合筆殊のふ廻りかね、

老眼探書、斬愧々々、後日可書改之

(鷹司政通
花押)

一一一

五 近衛忠熙等詠歌評 附消息

鷹司政通写 一卷 C八 三

五 三条西季知詠歌評

鷹司政通写 一卷 C八 三

五 伊勢物語七箇之秘訣

鷹司輔熙写 一冊 三六 二九

(奥書)

從光政卿二卷七見、別而伊勢之一卷不非無不審、然亦々勘考一助、以老筆自写畢

(鷹司輔熙
花押)

安政四年卯月

五 靈元院御製

嘉永七年写
鷹司輔熙・梅溪通善・六条有義

六冊 五〇 一五

各冊卷頭「天淵」印

(卷第一・二奥書)

嘉永七甲寅年八月日謹写之

内大臣藤原輔熙

(卷第三奥書)

嘉永七年八月

右少将通善謹書之

(卷第四奥書)

嘉永七年九月謹書之

右少将通善

(卷第五奥書)

嘉永七年八月謹書之

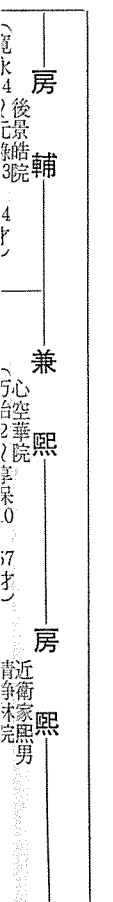
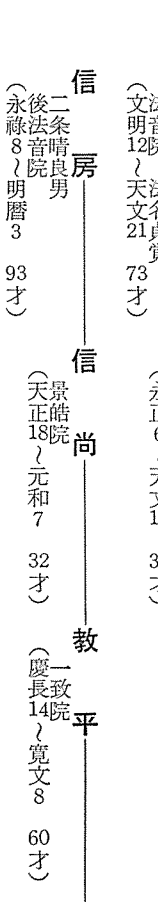
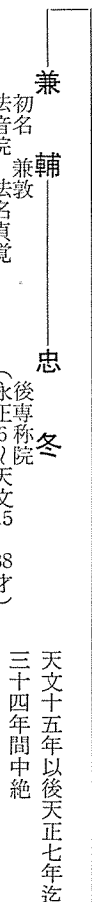
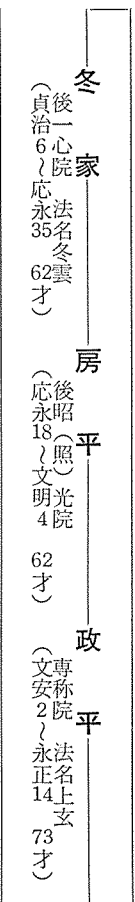
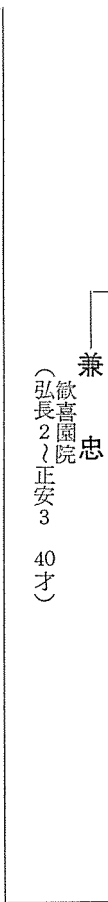
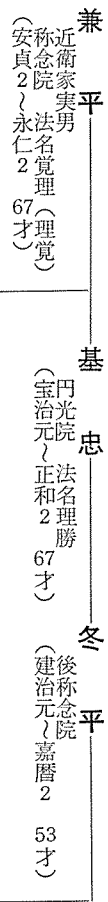
正五位下有義

(卷第六奥書)

嘉永七年九月

正五位下有義謹書之

鷹司家略系図



信房 二条晴良男
 後法音院
 (永祿8) 明曆3 93才

信尚 景皓院
 (天正18) 元和7 32才

教平 一致院
 (慶長14) 寛文8 60才

房輔 後景皓院
 (寛永14) 元祿13 64才

兼熙 心空華院
 (万治2) 享保10 67才

房熙 近衛家熙男
 清淨林院
 (宝永7) 享保15 21才

房子 靈元天皇皇后
 新上西門院

九条兼晴 西園寺実輔

一条兼香

尚輔 近衛家熙男
 了義院
 (享保11) 享保18 8才

基輝 一条兼香男
 常任心院
 (享保12) 寛保3 17才

輔平 閑院宮直仁親王男
 後元文4 華院法名理延
 (元文4) 文化10 74才

政熙 文思恭院
 (宝曆11) 天保12 81才

政通 真誠院 法名拙山
 (寛政元) 明治元 80才

輔熙 法名随樂
 (文化4) 明治11 72才

德大寺実堅

繫子 仁孝天皇女御
 新皇嘉門院

祺子 仁孝天皇女御
 新朔平門院

輔政 (嘉永2) 慶応3 19才

熙通 九条尚忠男
 (安政2) 大正7 64才



